

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和5年4月18日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立末広小学校 第6学年、全児童

実施児童数（ 73 人）

4. 調査の内容

（1）児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

- （ア）小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語、数学及び英語とする。
- （イ）出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- （ウ）調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数・数学においては、記述式の問題を一定割合で導入する。英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」及び「書くこと」に関する問題を出題し、記述式の問題を一定割合で導入するとともに、「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式によるものとする。

イ 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査（以下、児童を対象とする場合は「児童質問紙調査」、生徒を対象とする場合は「生徒質問紙調査」、児童及び生徒を対象とする場合は「児童生徒質問紙調査」という。）を実施する。

（2）学校質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査（以下「学校質問紙調査」という。）を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率の全体的な分布状況は、低位層と中位層が多く分布している。

平均正答率（本校 60／泉佐野市 62／大阪府 66／全国 67.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問	
<p>【書くこと】 ○1二 図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 (23.2/26.7)</p> <p>【言葉や特徴や使い方に関する事項】 ○1四 文章の種類とその特徴について理解しているかどうか (59.4/79.8) ○1三 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。 (いがい) (43.5/52.8) (きかん) (65.2/72.6)</p>	<p>【読むこと】 ○2四 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 (52.2/56.2)</p> <p>【話すこと・聞くこと】 ○3一 (1)(2) 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと の中心を捉え (58.0/73.6)・(59.4/74.0)</p> <p>○3二 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。 (56.5/70.2)</p>	

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか。	58.9	61.5		2.6
国語の勉強は大切だと思いますか。	91.8	94.2		2.4
国語の授業の内容はよく分かりますか。	83.5	85.7		2.2
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	94.5	92.8		1.7
今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。(全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した)	87.3	94.8	◇	7.5
解答時間は十分でしたか。	43.6	64.1	○	20.5

○記述式の設問において、正答率が全国に比べて下回り、あわせて無回答率が高い。記述式の設問に対して、抵抗感があると考えられる。低学年のうちから普段の学習の中で、自分の考えを一つにまとめたり、条件付きの文章を書いたりするなどスモールステップで記述する問題に取り組み、力の育成につなげる必要がある。

○出題が長文のものや、後半における正答率の低さ、無回答率の高さから、内容を理解せずに問題に向きあっていることが予想される。文章や質問の要旨や要点をつかめていなかったり、表などの資料の読み取りができていなかったりするのが課題と考えられる。様々な文章に触れながら、中心文を見つける活動などを通して読む力の育成につなげていく必要がある。

○漢字の定着を図るために、繰り返し練習するだけではなく、日常生活の中でも漢字や言語に興味関心が持てるように工夫して指導する必要がある。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

・全国・大阪府と比べても低中間層の割合が多く、上位層の割合が少ない。低・中間層の平均正答率の向上を本校の課題として取り組んでいく必要がある。

平均正答率（本校 55／泉佐野市 59／大阪府 62／全国 62.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
○2（4）テープを直線で切った三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く。 (10.1／20.8)	○4（1）示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ。 (33.3／46.0)
○3（2）3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する。 (44.9／56.7)	○4（2）運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める。 (58.0／75.7)
○3（4）66÷3の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ。 (33.3／47.6)	○4（3）二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、わかることを書く。 (44.9／56.2)
	○4（4）二次元の表から、読み取った根拠となる数の組み合わせを選ぶ。 (52.2／64.6)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか。	60.2	61.4		1.2
算数の授業の内容はよく分かりますか。	83.6	81.2		2.4
算数の勉強は大切だと思いますか。	91.8	94.2		2.4
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	94.5	93.3		1.2
今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。（全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した）	94.3	96.2		1.9
解答時間は十分でしたか。	66.2	84.5	○	18.3

○図形の性質を活用して解く問題において課題が見られた。公式や計算に重きを置いている傾向が見られるため、図形の性質に着目した指導を、学年を問わず行っていく必要がある。

○問題の間違い方に共通点が見られ、問題そのものを理解せず（読んでいないことが原因のものも含む）に解答していることが予想される。出題が長文のものであることや後半における正答率の低さからも、そのことがうかがえる。教科を問わず、「読む力」「粘り強く学習に向かう力」「集中力」の向上を意識した取り組みが必要である。

○集計値グラフより、本校における低中間層と中上位層の学力をそれぞれ引き上げて全体のレベルアップを図っていく必要がある。どちらの層も、大阪府の平均・全国の平均値と比較した際に大きな差があり、習熟度別の学習時間を増やしていくなど、レベルにあった学習計画・実施が必要である。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	早寝・早起き・朝食などの基本的な生活習慣は、全国を下回っている。 読書は好きだが、本や図書館に関わる機会が少ない。	(1) 毎日、朝食を食べていますか。 <87.7/93.9> (2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。 <74.0/81.0> (21) 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、図書館にどれくらい行きますか。(週1回以上) <4.1/13.4> (24) 読書は好きですか。 <65.8/71.8> (25) 今住んでいる地域の行事に参加していますか。 <38.4/57.8>
【家庭学習の様子】	自分で学習の計画を立て取り組むものの、家庭学習の時間が全国平均より大幅に下回っている。	(16) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。 <69.9/70.7> (17) 学校の授業以外に普段(月から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(1時間以上) <43.9/57.1> (18) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(1時間以上) <34.2/52.5>
【学校での学習の様子】	自分たちで課題を見つけ、主体的に解決する活動や、課題解決のためにICT機器の活用を積極的に取り入れる必要がある。	(12) 学校に行くのは楽しいですか。 <83.6/85.3> (27) 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいか。 <83.6/72.5> (6) 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか。 <97.2/93.0> (30) 学習の中でICT機器を使うのは勉強に役に立つと思いますか。 <75.9/95.1> (33) 5年生までに受けた授業で、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。 <58.1/78.8>

本校の取組

◎これまでの取組

1) 研究主題と研究体制

本校では、「話そう、伝え合おう」をテーマに研究に取り組んでいる。児童が自分の考えを発表し、友だちの考えも聞きながら自分の考えを深めることをねらいとしている。そこで、ペア学習やグループ学習を始めとし、暗唱や群読などの声を出す機会を取り入れたり、スピーチなどを積極的に取り入れたりして、「伝え合う」ことにつなげている。伝え合うための手立てとして、ハンドサインを用いたり、話す型や質問する際のポイントを提示したりしている。また、自分の考えを持てるよう、「書く」活動も進めている。具体的には、登場人物になりきって日記を書いたり、スケーリング(心情を視覚化する手法)を用いて登場人物の気持ちを表現したり、クロムブックを利用しダイヤモンドランキング(複数の選択肢の中から自分が大切だと考える順にランキングしていく手法)を作成したりする活動に取り組んでいる。さらに、自分の聞いた話を要約してまとめる活動を実施し、児童の力の育成に努めている。

(2) 学習規律の確立「学びをつくる5つのとびら」

学習の基本的なきまりを示す「学びをつくる5つのとびら」に学校全体で取り組んでいる。①筆箱の中身をそろえよう②下敷きをしよう③姿勢を正そう(立腰)④友だちの話を聞こう⑤自分の考えを発表しよう、の5項目から学期ごとに一つずつ重点目標を定め、学習規律の確立に努めている。今年度は、児童の実態に合わせて、1学期に③、2学期に①を重点目標に設定し、毎日の朝学習の時間に放送で呼びかけている。

(3) 少人数・習熟度別指導

3年生から6年生においては、学級担任と少人数担当による習熟度別に分割した授業やチームティーチングを行い、児童一人ひとりに応じたきめ細やかな指導(指導の個別化)を行っている。一斉授業と比べて、一人ひとりが発言する場や活躍する場が増え、学習に意欲的に取り組む姿が見られる。特に学力に課題がある児童には、主体的に取り組むなどの効果がみられる。また、間違えた問題をそのままにしていたり、最後までやり遂げることが難しかったりする児童をフォローするため、毎日昼休みの時間に学習支援を行っている。

(4) 学習の定着

本校の実態から、低学年での基礎計算や九九の定着に課題があり、中・高学年の学習に影響している様子が見られる。意欲を持ちながら基礎学力の定着を図るために、中・高学年が低学年にたし算・ひき算・九九を教える「けいさん応援隊」を学期に1回実施している。

(5) 家庭学習の推進

家庭学習の大切さを児童に意識させることをねらいとして、年度初めに「家庭学習の手引き」を配布し、学期に1回「家庭学習ウィーク」を設定している。自学プリントやクロムブックを活用しながら、家庭学習の習慣化に向けての取り組みを進めている。

◎これからの取組

今年度の全国学力学習状況調査の結果から、特に記述式の設問において全国平均と差があることがわかった。さらに情報処理の能力にも課題があり、情報を整理しながら自分の考えを表現することに、引き続き研究を進める必要がある。本校の課題を改善していくために、以下のことに取り組んでいきたい。

- 自分の考えを表現できるように、読解力・語彙力・要約する力の育成に取り組んでいく。その手立てとして、文章全体を読み取ることができるようにワークシートを工夫したり、心情を視覚化したスケーリングを用いたりして、支援していく。
- 記述式の問題への抵抗感があるため、自分の考えを一つにまとめたり、条件付きの文章を書いたりする活動を多く取り入れ、長文を書く力を養う。
- 語彙力や要約する力を育むために「ことばプリント」「要約プリント」を作成し、朝学習や普通の授業の中で取り組んでいく。
- 一人一台のタブレットを効果的に活用した研究を進めていく。
- 基礎学力の定着のために、プリントやドリルなどを活用しながら漢字や計算の学習に取り組んでいく。